



**KANSAI
UNIVERSITY**

教職支援センター年報

2015

関西大学 教育推進部
教 職 支 援 セ ン タ ー

『教職支援センター年報 2015』目次

投稿原稿

<小論文>

- ループリックを活用した初年次のレポート指導 関西大学文学部教授 安藤 輝次・・・ 1
- 中学校社会科地理的分野における苦手意識の偏在状況と
その改善に向けた提案 京都教育大学教授 香川 貴志・・・ 7

<報告>

- 「アクティブ・ラーニング」の実践からの教員の資質
についての考察・報告 非常勤講師 尾崎 進・・・ 12
- 今、教職を目指す人たちに伝えたいことー「教職実践演習」
の授業を中心に 非常勤講師 椎口 育郎・・・ 19
- 報告 大学生のための国語教室ー国語科教育法の課題 非常勤講師 桝井 英人・・・ 32

<教職支援センター特任教授からの報告>

- 教育実習に関する指導について ～国語を例として～ 特任教授 小野満由美・・・ 38
- 「教職実践演習」についての一考察 その2
ー『課題別グループ研究及び報告会』ー 特任教授 北井 宏昌・・・ 44

1. 教員の養成の目標

- 関西大学教職支援センターの基本理念・・・ 47

2. 教員の養成に係る組織

- 教員の養成に係る組織・・・ 48
- 教職支援センター規程・・・ 49

3. 教員の養成に係る授業科目

- 教職に関する専門教育科目および科目担任者一覧・・・ 51

4. 教員免許状の取得の状況

- 各学部・大学院で取得できる教員免許状の種類・免許教科・・・ 56
- 介護等体験 参加者数・・・ 58
- 中学校・高等学校教育実習生数・・・ 59
- 教員免許状取得状況・免許取得者数一覧（学部・大学院）・・・ 60
- 教員免許取得までの諸手続き・・・ 67

5. 教員への就職の状況

- 教員採用試験合格者状況・合格者数・・・ 68
- 教員採用試験「大学推薦」の応募状況・合否結果・・・ 71

6. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組

- 中期行動計画について・・・ 72

介護等体験事前指導について	73
2 年次生対象「教育実習受講希望者ガイダンス」について	74
3 年次生対象「教育実習ガイダンス」について	76
教員養成フォーラムについて	78
教員採用試験合格者との情報交換会について	80
教職専門科目担当者研究会について	82
教員採用試験合格者壮行会について	83
教員採用試験に向けて～支援制度を積極的に活用しよう～	84
教員採用試験 面接対策セミナー	86
教員採用試験 受験案内一覧	87
教員採用試験対策スケジュール	89
教職支援センター 利用状況	90
教職関係ガイダンス日程	92
教育実習出向指導校一覧	93
教職支援センターと初等教育学専修との連携について	96
教員養成のための豊能地区 3 市 2 町教育委員会との連携協力について	97
 7. その他	
教員免許状更新講習一覧	98
教職支援センター年報 投稿規程・執筆要領	99
教職支援センター委員会委員名簿	101

「アクティブ・ラーニング」の実践からの教員の資質についての考察・報告

関西大学非常勤講師 尾崎 進

はじめに

本講義については、昨年来ここに掲載している内容であり、教員免許を希望する学生を対象に3回生の後期より「教育実習事前指導」、4回生に「教育実習」「教職実践演習」の約2年間にわたるものである。その授業実践から、一講座40名程度の学生の動向等を中心に考慮しての表題についての報告・考察を試みたい。特に新しい授業スタイルとなる「アクティブ・ラーニング」の内容についての学生の反応に注目し、以下に記すことにした。

《授業風景》

アクティブ・ラーニングについては、昨年以下のことを掲載したが、今回は下線個所について学生の反応を踏まえ詳述する。



「平成24年の8月の中央教育審議会での『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け主体的に考える力を育成する大学へ～答申』(文部科学省のHP)を参照すると、その中で学修(学習とは区別して、予習・復習を原則として、アクティブ・ラーニングで討議・調査等をするには、事前学習・調査等が欠かせないとのことによる)者が能動的に学習する手法として、アクティブ・ラーニングを取り上げている。その用語集の中には『教員の一方的な講義形式の教育と異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれる教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である』と示している。また、小中高に対して昨年11月には、中央教育審議会が検討をする学習指導要領の全面改定に際し、新しい時代の実社会や実生活の中で役立つ力を高めるために、これからの「アクティブ・ラーニング」の具体的なあり方について諮問されたところである。・・・」

また、「アクティブ・ラーニング」を導入する背景としても、掲載したが、特に「・・・社会の変化とともに生徒・学生の変化と『学び』の質的变化への対応が問われてきた。学級崩壊や授業崩壊などを経つつ、教員の指導方法の模索が急がれてきたところである。時代にあった能力の育成に対して、従来の授業方法からの見直しが必要とされてきた。その1つとして「アクティブ・ラーニング」が目する能動的学修等により、育成される生徒・学生の新たな資質や能力が多く場で活かされることが期待されている。・・・」についての箇所についても詳述を試みたい。

I 3回生の授業から

① 班編成による常時討議形式の授業

学生自身がほとんど初めての体験（単発的には少数ではいるが）であり、慣れないための戸惑いが少なからず起こる。授業を進行しながら理解・習得するといった面が強く、学生の状況（参加意欲、集中度など）を含め進め方には配慮・事前準備等が必要となる。ただ、本来教える側からの授業の手法としてとらえられているが、学生側からすれば初めての経験であり、学ぶ側からの視点が強く、実際の手法の評価が実感でき、従来の授業と違った、多くの気づきが起こるようだ。4回生になり、実習後にまとめるつもりで観点が、この授業から前もって出てくる状況になってきた。ほぼ全員が討議により、自分以外の考え方に接し、複眼的に物事をとらえることの大事さを痛感している。昨年にも挙げたが、今回もほぼ同じように好意的に受け止めている。以下、代表的な反応を挙げる。

「・・・教員に必要な力についてはよく考えることはあったが、社会が求める教員の力や、生徒に身に着ける力について考えたことはなく、自分の考えの浅さを知ると同時にグループで話し合いをしながら理解が深まっていった。そのグループ討議の中でもそれぞれの意見をまとめるための工夫や役割分担の仕方など、話し合いをスムーズに進めるための方法について学ぶことができた。そしてグループの代表が発表する際は、話の内容だけでなく、声の大きさ、言葉遣い、立ち居振る舞いなども意識して聞くようになった・・・」

「・・・教員希望の人と議論することにより自分の持っていないアイデアや考え方、それをどう教育の現場に生かしていくのかなどの具体的なことまで話すことができた。自分があった考えが人によって違ったり、人の考えに自分の考えを入れてより良いものにしたり、専門性が一緒であったので詳しいことまで話すことができた。教育実習に行く前に自分がなぜ教員免許をとろうと思っているのか改めて考えなおすことができてよかった・・・」

「・・・コミュニケーション力が自分には全然ないということがグループワークをしていて実感した。人に何かを伝えるため、それ相応のコミュニケーション力がなければ難しい。生徒だけではなく、他の教師や保護者、地域の人々に情報を伝えなければならない場合がある。だから教員にとってコミュニケーション力が特に重要なのだと改めて感じた。自分の意見をもって相手にうまく伝える。このようなグループワーク活動における主張は教員に必要不可欠である。しかし、私はグループワークを経験したことがなく、人見知りの性格で積極的に参加することができずにいたが、このままではいけない、“今”こそ変わる時ではないかと意識し積極的に意見を出すようになり大きく成長し、自信を持てるようになり大変有意義な時間でした・・・」

② 班の役割の重要性と討議内容の事前調査

討議を深めるにあたって、話をスムーズに進めるための役割の重要性（司会・書記・発表）を学生自らが認識でき、まとめ役の班長への連携とともに班長の責任感等が機能できていた。意見をまとめる経過や伝えることの明確さを自らできるようにしておくこと。発表者が前で話すときの声の大きさや前を向いて話す姿勢などを身に着ける必要性などを強く意識していることがうかがえた。そのために、事前にテーマを考えてくることの必要性を自覚していた。学生の反応（アンケート）を挙げてみるが、前向きなものが殆どだった。

「・・・毎回レポートを書くことによって、教員になる自覚が高まったことである。こ

れは教育に関する様々な課題を考え、自分の意見をまとめることによって、意識が高まった。教員視点で考えることより、より深く教員という職業について理解することができた。さらには生徒視点では気づかないような、教員間の連携についても考えることができ、とても新鮮味のあるものもあった・・・」

「・・・与えられたテーマについてまずは自分で考えて意見をまとめ、それをグループで話し合うという形式がとても良いと思った。なぜなら、グループワークの機会があまり無かったので、とても新鮮に感じられ、他の人の意見を聞くことで自分のものの見方が広がったからだ。そしてグループのみんなが教員免許の取得を目指しているので、とても考えさせられる意見が多かった。また自分の意見を先にまとめるため、グループで話した時に意見をまとめやすい。うまくまとまらずに結論が出ないことになりにくく、発表するときも、どのように発表すればみんなが聞いてくれるか、どうすればわかりやすいかを考えることができたのもよかった・・・」

「・・・毎週、いろいろなテーマについてのレポートを書いて、話し合ってきました。自分では考え付かなかったような意見が出てきて、視野の狭さを痛感しましたが、同じ目標に向かっている人の意見を聞けるいい機会でした。短い時間で意見をまとめることは難しく、前で発表しても質問に答えられず、不十分なところがあり、ただまとめるだけでなく、もっと掘り下げて考えてまとめなければならず大変でした。はじめの方はぎくしゃくしつつ、意見がほとんど同じであったり、ばらばらであったり様々でまとめるのが大変でしたが、楽しくもありました・・・」

「・・・私はよく教育に関する時事をニュースやインターネットで聞くことがあり少しは内容を知っている話もありましたが、それらについて原因や対策方法を調べて知ることによって実際の教育現場に立った時に少しは良い対処ができるのではないかと思います・・・」

「・・・自分はこんなに何も知らずに教育実習に臨もうとしていたのかということである。毎回のレポートでは、教員が求められている資質や、いじめ、人権、体罰などについて自ら調べることによって、自分の理想の知識ある教員像に近づくことができた・・・」などと記す学生も出てきて、実施3年目になるが意義ある授業となってきたと思われる。

② 教員の仕事の多様さへの驚き

学生は実習を控え、模擬授業に関する反応は強く、授業に対し不安視する学生がほとんどである。誰もが模擬授業を実践希望するが、班毎で教材の板書計画、内容等工夫を準備し、班の代表として発表者(実践者)を決めているため、発表者(6班6名)でなくともお互いを参考にしている面が伺えた。模擬授業については4回生の「教育実習」で、引き続き深めていくことになっている。学生の感想を一部取りあげておく。

「・・・模擬授業は、自分はしなかったが生徒目線で聞くことができた。生徒に理解してもらえる授業がいかに難しいかということに気付いた。授業をするにあたって、その前の準備がいかに大事か。声の大きさ、板書の見やすさ、手ぶりや間合いなどを工夫する必要があると思った。いろいろな模擬授業を見ることはいい経験になりました・・・」

後は授業以外での教員の仕事について触れておきたい。教員免許を希望する学生は現在学校現場で起こっている問題事象は少なからず理解はしている。いじめや体罰、各種人権事象などについて日頃から関心をもっている状況がうかがえる。しかし、当然であるが、

実際に自らが教員として対処するには強い戸惑いがみられる。多くの問題を抱えた学校現場のドキュメンタリーなどの映像等（ビデオ）を視聴すると、今までの教員像の違いに、大きな衝撃を受けているようだ。

「・・・教員は色々考えることがたくさんある。特に印象に残っている授業はビデオを見た時です。高校を卒業したら大学に行くものだと思っていただけに、高卒での就職の大変さや子を持つ生徒の大変さなどを知り考えさせられました・・・」

「・・・ビデオを見て、生徒に対する先生の思い。新任の先生だからとか関係なく生徒一人一人と真剣にぶつかり合い理解し合って生徒を導いていく、その姿を見て教員とはこのような人のことを言うのだろと思いました。勉強の教え方を学んだのではなく、それ以外に人として社会人になる生徒に対して、時には厳しく言葉に重みをもち、一緒に悩んだり、先生の思いを手紙に書いて生徒に渡したりする姿は感動しました・・・」

「・・・あんなにも生徒のことを考えて教員をしている先生がいることは教師に対するこれまでの印象が全く違ったものに思えました。これから考えなければいけないのは授業以外のことがたくさんあると思います。自分たちが経験していないような現場に教員としていくことがあることも再認識した。教師は、ただ単に教科についての知識を教え理解させるだけの存在ではないことを学びました。・・・」など、様々な意見があった。

II 4回生の授業から

「教育実習」については、実習後の振り返りなどで、例年それぞれの現場経験が異なり、成功例や失敗例などで話題は盛り上がり、達成感を持ってきたようだ。ここからは後期の「教職実践演習」の中での「アクティブ・ラーニング」について、学生の授業でのPower Point(断片ではあるが)を作成したものを挙げて、記してみたい。教職の最後としてICT使用して、「教育実習で教えた内容・単元でPower Point の利用効果のあるのを選び、もう一度教科指導案を作り直し、模擬授業を実施」を目標に授業を進めた。そのための準備として、3回生からの各班ごとのテーマの毎の流れを以下に示し、発表にはPower Pointの使用をルールとした。

レポート提出⇒討議⇒課題のまとめ⇒発表⇒改善⇒元のレポート

《授業での発表風景》

《学生がテーマ（班）ごとにまとめた例》



班での討議、まとめる

- * 班での討議
 - 3回生で行った
 - 4回生では、プレゼンをするので、役割を決める
- * まとめる
 - 付箋に書いて、意見を共有(見える化)
 - 同じ意見でも見方が違うかもしれないのできっちり相手の意見を聞く

授業では、討議から発表までの経過をPCに落とし込みながら、その班での意見をまとめていくという活動を行った。各テーマに班で意見交換したものをまとめ、さらにPower Point で工夫を凝らし教材を作成し、発表しあうことで、伝える力を向上させていくことをねらいとした。

班でのプレゼン作成のテーマが左から右へブラッシュアップ

《各自でまとめたもの》

《班で討議・検討した後、まとめたもの》

一人一人に積極性があれば、、、

- ・自分の意見を出し合う力、みんなの意見をまとめる力、人の意見を聞く力を養うことができる。
- ・他人の意見を尊重できるようになる。
- ・1人では思いつかなかったことも発見することができる。
- ・仲良くなれる。

➡ 将来の自分の成長を助けてくれる。

- ・意見がたくさん出る
- ・一つ一つの意見に多人数で吟味できる
- ・話し合いの最中で新たな発見がある
- ・一つの意見の裏表が見える → **そこで すり合わせ!!!**
- ・発言をしやすい雰囲気ができる
- ・自分に自信が持てる
- ・相手を尊重できる

自尊心が高められる

授業では、学生が授業に事前に自分で上図(左図)のようなPowerPointを作成した後(紙面でも持ち寄る)、データをUSBで共有化し、班で討議・検討を重ね、1つの完成版(右図)をつくるという流れで実施した。

I C Tの活用は、3年生からの積み重ねはあるが、取組状況や集中度などからみて、毎回強い関心が寄せられていることが伺えた。I C Tを活用する授業体験は経験していない学生が半数を超えるが(受講者 18/32 名、経験者は単発的なもので常時はいない)、教える側として使用したい、できるようになりたいと、ほとんどの学生が前向きに取り組みたいと考えていることがわかった。各テーマ後にプレゼンが必要かどうかについて2名が「手間がかかり必要ない」との意見(無答3名)、他27名のほとんどが「自分の意見を伝えるために必要」「可視化しながら討議すると、議論がスムーズに進めることができる」また、「プレゼンしようとするとう理解が深まる」「プレゼン能力、伝える力やまとめる力が上がる」「討議しにくい性格の人とか、他の多くの人の意見が理解しやすい」「他の班のことがわかり、情報の共有化がはかれる」とか「プレゼンしようとするとう討議せざるを得なくなり、さばれない」という意見もあった。今後活用する上で、準備の負担面や効果的な活用方法など、具体的に検討している様子が見られた。

《プレゼンの有用性について説明の際、使用したもの》

(3) 生徒の興味をひける

- ・黒板ばかりの授業が多いと思うのでプレゼンなどで授業をすることで生徒の興味をひくことができる。



- ・毎回の授業でプレゼンなどを使うと新鮮味が薄れてしまい興味をひくことができなくなってしまうので要所所で用いると良いと思われる。

●デメリットの改善方法

- ・生徒が分かった気になる
→ 合間にプリントや演習を使用して確認!!!
- ・作る技術が必要
→ 先生の経験次第で向上は見込める!!!
- ・生徒の意見の取り込みができない(作ってしまったから)
→ そこは黒板も使ってカバー!!!
- ・生徒は書かなくなる
→ 板書ページを作る!!!
- ・先生が手を抜いているように見える
→ 先生の熱意でカバー!!!

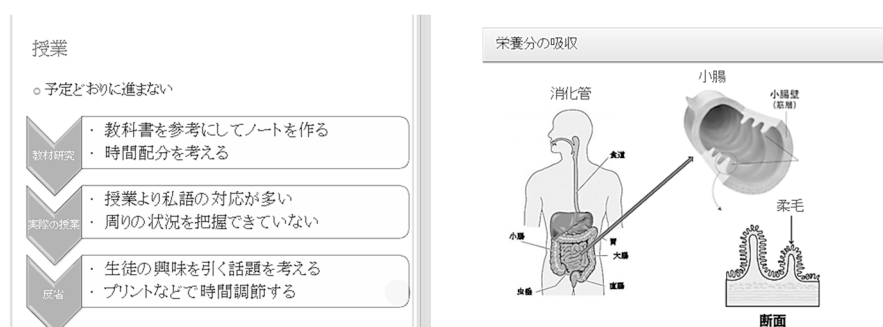


このようなPowerPointを用いた授業を何度か経て、手慣れてきたところで模擬授業の完成を作成することとした。学生はPowerPointの功罪を経験しており工夫を凝らし、これからの自らの授業に生かしたいと意欲的に取り組んでいた。

模擬授業では、1班毎に6回にかけて実施したが、その後の評価を踏まえ、次の班が改善していく様子が見られ、互いに模索しあうことを通し、自然と相乗効果が期待できるよ

うになっていった。一方的な授業にならないように、理解しやすい授業運びの模索・工夫として、PowerPoint を常時利用するのではなく、生徒全体を見渡しながらかたり、画面の説明とメリハリをつけたり、ノートすべきところの板書を併用したり、時には画面から離れて生徒との受け答えのやりとりに時間を割いたり、必要に応じて机間巡視をしたりするなど、その場に応じた工夫を心がけることができるようになってきていた。学生自身が十分に手ごたえを感じていることが伺えた。

《班で討議したもの（左図）を、授業で活用するために工夫を凝らし作成しなおしたもの（右図）》



このようにした授業計画を進めていく過程で、学生自らが教えるにあたって、従来の授業から何らかの改善の必要性があることに気づくこととなり、下図も準備した。

授業について

- ・この先生の授業はわかりやすいか。
 - ・話し方は適切か。
 - ・板書の字や図は見やすいか。板書の量。
 - ・授業の進め方、進み具合。
 - ・授業は面白い。
 - ・先生に気軽に質問できずか。
- 他の先生からもアドバイスをもらってより良い授業に改善

授業アンケート作成にあたって

- ・内容等の経過から6つを抜粋
- 授業のスピードはどうか
- ノートは取りやすいかどうか
- 板書を写す時間が取れているか。
- 板書の字の大きさ・見やすさは適切か。
- 自分は授業に参加していたと思うか
- 興味・関心を持って授業を展開しているか。
- 先生の質問は分かりやすかったか
- 教材研究をきちんとできているか。
- 数学についてどう思うのか
- 数学という科目をどのように感じているかを確認。
- 自由記述

III まとめ

学生の討議してきた中で特に関心の高かったテーマとしては、「自らが目指す教師像」「これからの学校像」「HR活動などでの多数決について」「いじめ、体罰、LGBTの人権問題」「学力問題」などがあげられる。学校現場の状況の複雑さや多様さなどの課題を知るにつけ、教員を目指す学生にとって、同志と問題意識や熱き想いを改めて共有できたことは、心深くに刻まれ、有意義な経験となったと考える。

授業を通し、学生自らが得られた経験は、次の2点ではなかろうか。

- ① 通った学校が楽しかったこと
- ② そこでの先生とのいい出会いがあったこと

自らが教員となったとき、今後は自分が生徒に同じような経験をさせたいという思いが教員へのモチベーションとなっていることが伺えた。以降の事象は、18歳の選挙など、これからの学校への波及を考えての不安な面の表れであろうか。

学生が授業づくりに熱心なのは、最良の答えが1つだけしか存在しないというものではなく、研究し甲斐があると同時に、もしかすると従来のような知識を中心とした授業を教

えることへの限界を無意識に感じているのかもしれない。生徒に聞いてもらえないことは、自らの経験を通し、進学以外の学習への興味を持っていないかったことが大きい。実習や塾などで、まのあたりに多様な生徒の実態を知り、進学以外の学習への動機づけに迫られている。生徒への学習への動機づけをいかに図るか。「金銭的なインセンティブとしての学力向上について」は時間がなく充分討議できなかったが、そうした状況で「アクティブ・ラーニング」を知り強く関心を示している。今までに経験したとする学生は15名だが、ほとんどが単発的で、実施教科などでは数学4名、社会2名、英語2名、道徳やHR活動5名、大学の授業で2名となり、その他17名が内容など知らない状態であった。「今後、教育現場でこの手法を使用したいか」の質問では、1名が使わないが技術は身につけたいと考えている学生以外、31名が積極的に使いたい、技術を身につけたいと回答しており、「まずは従来型の授業を目標としてからの実施」「質問など考えさせる内容を練っておく」「小テストの前に取り入れたい」などすでに具体的に織り込んでいる学生もみられた。一方で、時間と手間がかかるのと、経験したものはイメージがつかめているがない学生には、新たに取り入れるという面では強い不安を感じていることが伺えた。

言うまでもないが、ICTを活用した授業は、学び方に幅が広がるが、あくまでもまなびの手段の1つであり、人としての学びの変容を見守っていくことが重要である。そんな姿勢が求められることも、授業の過程を通して感じてもらえたと思う。